

令和4年度第2回西東京市農業振興計画推進委員会議事録

会議の名称	令和4年度第2回 西東京市農業振興計画推進委員会
開催日時	令和4年11月11日(金) 10:00~12:00
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎3階会議室
出席者	(委員) 後藤委員長、田中副委員長、本橋委員、村田委員、保谷委員、 中野委員、吉田委員、林委員、遠藤委員、飯田委員 (事務局) 西東京市生活文化スポーツ部産業振興課 下田部長、原島主幹、樋口係長 ランドブレイン株式会社 齋藤、宇井
欠席者	蓮見委員、鎌田委員
議題	(1) 第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】に基づく令和4年度事業について (2) 第3次西東京市農業振興計画の策定について ① 計画策定に係る概要 ② 現状分析について ③ 市民意向調査について ④ 今後のスケジュール (3) その他 次回の委員会開催日程について
会議資料	資料1 西東京市農業振興計画推進委員会 委員名簿 資料2 第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】事業一覧 資料3 第3次西東京市農業振興計画 策定スケジュール(案) 資料4 第3次西東京市農業振興計画 策定スケジュール案(抜粋) 資料5 西東京市農業振興計画策定について 資料6 統計データ 資料7 アンケート調査概要 市民意向調査 農業者意向調査 子どもアンケート調査 参考資料 若者ワークショップ実施概要
会議内容	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
○事務局： (挨拶)	
○事務局：	

【資料1により委員紹介】

○事務局：

西東京市農業振興計画推進委員会要綱第5により、委員長及び副委員長は委員の互選によることとなる。委員から自薦・他薦などあるか。

○委員：

後藤委員を推薦する。

○事務局：

後藤委員に委員長をお願いする。

次に、副委員長の互選について、委員長から副委員長を推薦いただきたい。

○委員長：

副委員長は田中委員にお願いしたい。意見はあるか。意見無いため、田中委員に副委員長をお願いする。

○事務局：

全員に承認をいただいたため、委員長に後藤委員、副委員長に田中委員と決定する。

続いて、第3次西東京市農業振興計画策定の依頼について、市長の代理として、生活文化スポーツ部長より、後藤委員長に依頼文書をお渡しする。

その後の進行については、後藤委員長にお願いしたい。

○委員長：

次第に従い、本日の議事を進める。委員会の運営方法について、事務局より説明をお願いする。

○事務局：

西東京市の市民参加の基本方針として、各審議会、委員会等は原則公開としている。また、傍聴人の定員については、会場の広さを考え、原則3名までと考えている。

会議録についても公開しなければならないと定めている。会議録作成方法としては、全文記録、発言者の発言内容ごとの要点記録、会議内容の要点記録の中から、会議内容に応じ適切な方法を選択するものとなっているため、本委員会は発言者の発言内容ごとの要点記録を採用していた。また、会議録の記載については発言者名を記載するものとするが、率直な意見の交換や、意思決定の中立性を確保するため、出席者の過半数をもって決した場合は、発言者名を伏せた形で会議録を作成し、公開するとされている。事務局としては公開前は発言者名を記載した形で委員に確認いただき、承認を得た後に、名前を伏せて公開させていただければと思う。

○委員長：

意見、質問はあるか。「西東京市市民参加手続き」に基づき、本会議を公開することに異議はないか。；
会議録作成方法は、発言者ごとの要点記録とすることに異議はないか。会議録の記載事項のうち、発言
者名は公開の時点で伏せるでよろしいか。

○委員

(異議がないことに挙手)

○委員長：

傍聴者の確認を事務局より願います。

○事務局：

(「傍聴者なし」の報告)

○委員長：

資料の確認を事務局より願います。

○事務局：

(配布資料の確認)

○委員長：

議題(1)第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】に基づく令和4年度事業について、事務局より説明をお願いします。

○事務局：

【資料2の説明】

○委員長：

この件について、ご意見または質問を受け付ける。

○委員長：

資料2の⑫新たな支援策の調査・研究の都市農地保全プロジェクト補助金事業の手続きの継続について教えてほしい。

○事務局：

例えば農業用の井戸を作る、土留めを作るなどの際の補助金になる。継続実施で取り組んでいる。

○委員長：

資料2の⑮めぐみちゃんメニュー事業で農業者と商業者との配送を福祉法人に依頼し農福連携を図ったとのことだが、具体的にどのような内容だったか。

○事務局：

夏に社会福祉法人さくらの園にお願いをし、発注のあった事業所と農業者間を車で野菜の配送をした。その期間のみ試行的な取組を実施した。

○委員長：

議題（２）第３次西東京市農業振興計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

○事務局：

【資料５、６の説明】

○委員長：

この件について、ご意見又は質問を受け付ける。

○委員長：

統計データの７ページ「生産緑地の変遷」について、生産緑地の指定を始めたときから表があると、推移がわかってよい。

○委員長：

また質問などあれば、受け付ける。

次に意識調査について説明をお願いしたい。

○事務局：

【資料７の説明】

○委員長：

まず市民意識調査について、ご意見又は質問を受け付ける。

○委員：

市民アンケート問 30 にあるエコ農産物の注釈について、東京都エコ農産物の説明である。例えば千葉や大阪にもエコ農産物の基準がある。エコ農産物自体に定義がないため、「有機農産物や化学合成農薬、化学肥料を削減して作られる農産物であること」とし、注釈で市内の農家は東京都エコ農産物に取り組んでいるといった書き方が正確性でるのではないか。

○委員長：

注釈は削ってよいということになる。

○委員：

問 32 の回答について、直売所というと JA の直売所を思い浮かべる。（３）市内の農産物直売所、庭先販売と（４）JA が行っている即売会の違いがわからないため、違和感がある。また、問 33 の農産物直売所は JA が行っているものも含むのかわからない。

○事務局：

整理が必要ということは事務局内でも出ており、建物としてある直売所、庭先にある販売所、イベントとして実施する直売所として整理することがわかりやすいと考える。ご意見踏まえ、修正を加えたい。

○委員長：

質問項目や回答項目が多く、回答するのが大変である。問8でも相当なストレスである。

○委員：

他のアンケート調査も含めてだが、ボリュームがあると質問項目が多岐にわたり、複雑になると最後の方で回答意欲がなくなり、回収率が悪くなるのではないか。内容を薄くするわけにもいかないため、難しいと思うが、市民が回答しやすい工夫が必要ではないか。

○委員：

問7西東京市にお住まいになってどれくらいですか？とあるが、プラスしてなぜ西東京市へ住むようになったかということも知りたい。もともと農地だった環境面を選んで住むようになったのかを知りたい。

○事務局：

回答項目が多いことは、なるべく簡潔に、回答しやすいように整理したい。

○事務局：

なぜ西東京市に居住をしているのかについては、現在、西東京市では総合計画や福祉関係の計画の改定作業進めている最中で、そのアンケートで意向伺う予定である。回答を提示できる機会があると思う。

○委員：

西東京市では、どのくらいアンケートを実施しているのか。総合計画でも独自にアンケートを実施しているのか。

○事務局：

正確にはお答えできないが、10を超える予定である。先ほどの居住要件など西東京市全体に関する質問については、上位計画の総合計画で予定している。農業に関する部分を、このアンケートで確認する。

○事務局：

問35で、あなたは、西東京市内の農業や農地についてどのように感じていますか？という設問を設けている。視点を変えれば、西東京市に住むようになった理由を読み取れる部分がある。西東京市のどこに価値を感じているか、ある程度把握できると考える。前回アンケートと比較するため、設問はその

ままにしてあるが変更をして、住むにあたって西東京市の農業・農地が価値を感じるかといった設問に切り替えることもできると思うので、議論の余地はある。

○委員：

設問については、産業マスタープランでも必要であれば仕方ないが、今回の計画策定にあたっての論点である課題項目にあてはまるのであればよい。市民に何を聞きたいかが重要である。

○委員長：

現状を広く知りたいというアンケートとある程度の施策の方向性の視点、施策をどう受け止められているかを確認するアンケートでは違うため、悩むところである。

○事務局：

整理すると、問 29 からは市民がどのような消費行動をとっているか、特に西東京市の農産物についてどこで買い、何を求めているかを確認している。今回の計画策定にあたっての論点では、販路・地産地消を考える方向性につながる。問 35 からは市民に農業を支えてもらえるよう、価値を認識してもらうため、どういう施策を目指せばいいかという話につなげる。何を実現させたいかを市民から聞き、それに基づき、行政・農業者のみなさんと具体的な施策を考えていく。問 42 からは今までの施策評価を率直にお伺いする。必ずしも必要ではない項目もあるかもしれないため、精査は必要である。

○委員：

前回も同じアンケートを実施しているので、前回と今回の比較を見たい。

○委員長：

意見を踏まえただうえで、全体的には減らす方向で考えた方がよいと思う。

○委員：

前回の回答率はどのくらいだったか。回答率によってもボリュームの検討を考えた方がよい。

○事務局：

前回の中間見直しの際は、市民 1000 人対象で実施し、回収数 349 人であった。農業者のアンケートは 265 人対象で実施し、回収数 136 人であった。

○委員長：

3 割程度なので、ある程度の回収率である。設問が多いと、回答がいい加減になる可能性もあると思うため、回答の信頼度にも関わるため、事務局で検討してもらいたい。

○事務局：

回答しやすいアンケートにはしたい。設問数もだが、回答の選択肢も見直しをさせていただく。前回アンケートとの比較もしたいというご意見も踏まえ、とりまとめていきたい。

○委員長：

次に農業者意識調査について、ご意見又は質問を受け付ける。

○委員：

地区担当の農業委員が配布と回収の両方を行うということか。

○事務局：

12月の定例総会時に、各農業委員が各地区を回って配布いただき、回収も直接伺い回収することを考えている。

○委員：

問10の回答(5)について、新たな資材・作業機械(AI技術、ロボット、ドローン)とあるが、AI技術、ロボット、ドローンは都内の生産規模だとまず入れることを考える人はいないため、スマート農業では、都内の農業者が関心を持っている温室の環境制御や農業生産管理ソフトなどが中心であると考え。実際、都内の農業者の実情にあった書き方にしてもらえたらよい。

問21について、あてはまるものすべてに○であれば、(3)家族・アルバイトとも動員しているは、(1)アルバイトを雇用している、(2)家族を動員しているという回答でまかなえている。

○委員長：

問21は、農繁期等に限定しているが、全期間通してアルバイトやボランティアを入れているか現状の設問はないか。

○事務局：

ない。

○委員長：

繁忙期というよりも、現状を確認できたらよい。

○委員：

計画策定にあたっての論点に関わることだが、「女性農業者の活動の支援」は現計画でも明記されているため、女性の活躍が目に見えることは非常に難しい課題ではあるが、足掛かりとして、女性の声を集めて課題を把握して、議論できればよい。農業従事者の女性の割合などもアンケートで確認できないか。

○事務局：

農業センサスは項目が変わり、男女比が出ていない。

○委員長：

問7は問6があるため、必要ないのではないか。その部分に従事する日数や男女比が確認できたらよい。家族労働力の把握ができるため、検討してほしい。

問3の後継者について、誰が答えるかによるが、若い農業者にとっては「まだわからない」という回答もあった方がいいのではないか。

○事務局：

「まだわからない」は追加しておく。年齢層別に分けて分析するかは確認する。

○委員：

後継者の定義をわかりやすくしてもらえたらよい。本人が50歳で80歳の父がいる場合、80歳からみたら、自分が後継者になるため、後継者がいると回答する可能性がある。

○事務局：

例えば、10年後に後継者がいるかといった聞き方だとわかるか。

○委員長：

問1とクロス集計すればわかるのではないか。

○委員：

家族の中で誰が答えるかではなく、一家の中で後継者がいるかという聞き方がわかりやすいのではないか。

○委員：

自分が後継者であるとして、いると判断するのか、誰が回答するかで答えが変わるため、整理して聞かないと難しい。

今回のアンケート趣旨とは異なるかもしれないが、普段よく聞かれることが農薬の影響である。農家だけをピックアップした寿命の数値を出して、影響を調べられるか知りたい。

○委員：

祖父母の時代は、裸足でかなり濃度の強い農薬を使用したりしていたが、80歳くらいまで生きている方もいる。

○委員：

国では有機農業を推進する施策になっており、その影響で一般の方も有機を推奨する方が増えてくる可能性がある。そのような中、農家として農薬の影響をどのように回答していけばいいのかデータがほしい。

○委員長：

国が有機農業を推進しているのは、単に農薬を使用している農業者の寿命と関わるからだけではなく、様々な側面がある。

○委員：

単純に一般の方から聞かれてしまう。また、農薬利用の農産物を食べて、どのような影響があるのか。

○委員：

農薬との死亡の因果関係を立証するのは非常に難しい。また、人間が食べ続けていても害がないとした農薬の使用基準で国が定めている。

○委員：

大変興味深い話ではある。農薬と寿命の因果関係は大学や研究機関でないと調べられないものだと思う。大学ゼミの研究対象になることはないか。学生が卒論で題材にするなどおもしろいのではないか。

○委員長：

農業者の寿命が農業者以外の人の寿命との比較の研究は読んだことがない。都市農業で排ガスが多いところで育てた野菜とそうでない野菜の栄養分等がどうなるかについて論じたものを読んだ記憶がある。

どう調べるかが難しい。体験農園の体験者へアンケートをとり、体験した方はストレスが解消されて健康にいいというデータはあり、農業に携わったり、農に触れると健康によいというデータは発表されている。農作業と健康の影響の研究であり、農薬との関係はわからない。

○委員：

住宅に囲まれた農地は農薬散布に気を使う。農薬にクレームをつける方は多い。農薬の影響についてのデータは、特に都市農業には必要と感じる。

○委員：

農薬だけで農家が亡くなるものではないため、因果関係は難しい。逆に農機械の事故で亡くなる方が他の産業と比べると多い。80代でも働いている農家さんはいる。農薬の人体の影響については、農薬工業会、緑の安全推進協会で資料をまとめて、ホームページで公開されている。大学の先生であっても、死因などは個人情報を探るところまで得ないと調べることは難しく、無理だと思う。市民から聞かれるのであれば、今ある資料で説明していくしかない。資料が必要であれば、東京都中央農業改良普及センターでお手伝いする。

○委員長：

農薬の議論を交わすことは大事だが、農薬について化学的なものを減らせるのであれば、環境など様々な問題も考え、減らせる方向に努力していく必要があると思う。化学的な農薬に代わる農業のやり方を工夫し、できるだけ化学的な農薬は減らしていき、農業そのものが自然との関係で持続可能になっていくためにも減らしていくことが必要な方向だと思う。

○委員：

消費者が農薬使用のきれいな野菜と農薬不使用の穴が開いている野菜を買うかという、穴の開いていない方を買う人が多い。体内への残留農薬を調べることは不可能に近い。消費者には理解してもらいたい。

○事務局：

貴重なお話は参考になる。今回のアンケートは、アンケートの表紙に記載している通り、市内農業・農地の現状、また、農業者の皆様が農業・農地について、どのようなお考えをお持ちであるかということ伺いたいということが一つの目的である。今回、市内の農家 260 軒への調査であるため、農薬と寿命の関係については日本もしくは世界規模でデータが必要であるため、統計的にすることは難しい。西東京市だけで答えがでるものではないため、アンケートへの反映はできないことご理解いただきたい。

○委員長：

次に子どものアンケート調査について、ご意見又は質問を受け付ける。

○委員長：

問4の回答について、子どもが「役に立っていない」、「あまり役に立っていない」、「普通」、「役に立っている」、「とても役に立っている」と細かく評価するのは答えにくいのではないか。「役に立っている」、「わからない」、「役に立っていない」くらいでいいのではないか。

○委員：

問6の回答項目について、西東京市の農業のことを子どもで知っている人はほとんどいないのではないか。小学生に聞いて何の意味があるのか。

○委員長：

意味がないのであれば、設問をなくしてもよい。

○事務局：

問6については、全員が答えられなくても、西東京市の農業について知ってもらおうという意味合いもあるため、キャベツの生産量が多いなど、表現をやさしくして、設問は残したい。

○委員長：

問6を読んで、勉強してもらおうことも兼ねているということ。

○委員：

対象が小学6年生と中学3年生とのことだが、受験の時期に実施してもらえるのか。

○事務局：

はじめは小学5年生と中学2年生でお願いをしていたが、現在、庁内で様々な計画策定中で、子どもへのアンケートの実施がそれぞれあり、教育部と連携し、同じ学校、同じ学年が重複してアンケート回答者にならないよう調整した結果、小学6年生と中学3年生となった。

○委員長：

子どもアンケートについては、先ほど意見のあった問6について検討していただく。正確を期さなくなるかもしれないが、子どもへのアンケートであるため、ある程度簡単な表現にしてもらえたらよい。

○委員：

問5は回答項目が多すぎるのではないか。計画策定にあたっての論点に絞った方がいいかと思う。

○委員長：

アンケートは12月までに実施し、計画策定の上で、アンケート結果が必要であるか。内容の検討に時間がかかるようであれば、慎重に検討し、12月以降に伸びても大丈夫なのか。

○事務局：

今年度のスケジュールでは、今年度中にアンケートを取り集計して、次回の2月下旬に予定している委員会できりまとめを報告できればと考えていた。来年度は、これら意見を活かしてどのような計画策定にもっていくか動くため、タイトなスケジュールではあるが、12月配布で進めさせていただきたいと考えている。

○委員長：

わかった。では、今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局：

【資料3、4の説明】

○委員長：

アンケートについて何かご意見あれば、11月15日昼までに事務局までご連絡願いたい。

では、次回の委員会開催について、事務局より説明をお願いします。

○事務局：

次回の委員会開催は、2月17～27日の間を考えている。委員の皆様でお時間や曜日のご都合があれば、お申し出いただきたい。

会議録については、作成したものを皆様へお見せし、修正していくため、ご協力願いたい。

《閉会》